

打撃系他流試合の奨励とJ T A プロ選手会の設立

2011年3月11日

日本テコンドー協会

宗師範 河 明生

一、J T A 戦士への打撃系他流試合の奨励

J T Aの戦士は、本人が望むならば、自己責任の覚悟の下、
J T A全日本優勝経験、入賞経験にかかわらず打撃系他流試合に挑戦すべきである。

同じウェイトならば顔面強打やローキックはおそるに足らず。
現役、J T A全日本チャンピオンが負けても何ら恥じることはない。
強さを追求すべく挑戦する勇氣と姿勢は、常に美しい。
相手の試合ルール、審判、観客等のアウェーで正々堂々と戦ったのなら胸をはるべきだ。
勝っても負けても礼儀正しく、さわやかな態度で臨めば十分である。

ただし、日本跆拳道の長所が発揮できる顔面強打有りのフルコンタクト・ルールに限る。
たとえば、プロキック・ボクシングの登竜門・新空手大会やKAMINARIMON等の
キックボクシング団体等が主催する顔面強打有りのフルコンタクト・ルールの試合。

顔面強打の無い極真空手ルールを源流とする各種フルコンタクト空手の試合への参加は、
あまりにも相手との間合いが接近しており、
顔面強打を前提にした間合いでの蹴美・蹴武を極める組手を本分とする日本跆拳道の長所が
まったく発揮できないからである。

(解説)

紀元前200年前後、漢王・劉邦は、最強の豪傑であった楚王・項羽との天下の覇権をめぐる戦いでその大部分に負けたが、敗戦から多くのものを学び、負けじ魂でふんばり打倒・項羽を諦めなかった。そして劉邦は、対項羽戦、唯一の勝利となる最後の戦いで項羽を滅ぼし、漢帝国の高祖となった。漢帝国の創建により現代中国の最大民族＝漢民族の栄光は始まったと考えられる。

この故事から我々が学ぶことは、
負けても負けても強敵や目標に立ち向かい戦い続けるという負けじ魂及び根性でふんばり、
「最終的勝利」を目指して立ち向かうという強固なチャレンジャー精神を
持続的に燃えたぎらせることが可能ならば、
道はおのずから開ける、という「勝利」へのプロセスである。

たとえば不適切かも知れないが、私自身も幼い頃は、身体が小さく、腕力も劣っていた学校内では「いじめられっ子」であり、稀に身体が大きくケンカの強い「いじめっ子」に反抗したとしても、常に負かされていた。放課後の学外でも「学生アウト・ロー」にボコボコにされていた。

しかし、いじめられたり、負ける都度、自殺はただの一度も考えたことはなく、幼いながらも、親、先生、先輩等に頼んで助けてもらうことを潔しとはせず、武道や格闘技を学ぶことで「自分自身が強くなりたい！」と思い持続的に努力・練習した。

同世代の若者が、海や山、バイクやプール等のレジャーで青春を謳歌している最中、もくもくと武道や格闘技に励んだ結果、希望通り強くなった。強くなると一目おかれるようになり、所属していた集団でのポジションがあがり、「学生アウトローの世界」でも一目おかれる存在となり、若者なりの達成感をもつようになった。

東京朝鮮高校3年に進級する頃には落ち着いてケンカはしなくなり、以来、今日に至っている。その頃から、ルールにもどつく強さ、つまり武道の試合に集中するようになり、十二分に突き、そして蹴ったので第6回世界テコンドー選手権大会終了後、現役を引退したのだ。現在の私は、逆境に極めて強い。それは幼い頃に与えられた試練が、弱い私を鍛えてくれたからに他ならない。

自身の経験から

負けても負けても強敵や目標に立ち向かい戦い続けるという負けじ魂や根性があるのなら打撃系の他流試合に果敢に挑戦すべきである。自分なりの「最終的勝利」を目指して最後まで立ち向かうという強固なチャレンジャー精神で挑むべきである。

そういう経験を多くのJTA戦士が積み上げれば、現役引退後の指導者人生で活路が見いだせる。強い弟子を養成する際の糧になるのだ。指導者層の上記の蓄積はJTAの組織的財産になる。ゆえに「チャンピオンが負けるとJTAの強さの評価が落ちる」等はいしたことはない。JTA組織的メンツなどまったく気にせず、果敢に挑戦してもらいたい。

「強さを追求すべく挑戦する勇気と姿勢は、常に美しい。
それはJTAの普遍性を帯びた姿勢である」と私は考えている。

二、JTAプロ選手会の設立

しかし、無秩序な他流試合は、主催団体との間で軋轢が生じる可能性がある。それは礼儀礼節を尊ぶJTA七大精神に反する。

また、気持ちだけが高ぶっても、人には向き不向きがある。しかも顔面強打に対する練習を十分にしていない選手が、勢いで参加しては危険である。

そこで下記の通り、J T Aプロ選手会を組織し、会長・尾崎圭司に届け出ることを義務づける。
2008 K - 1 WORLD MAX JAPAN第3位の実績をもつ尾崎圭司の指導には従うべきである。

あわせて今後、プロを志望するJ T A選手も、尾崎圭司に届け出ること。

設立団体名 J T Aプロ選手会

設立年月日 2011年2月23日、平塚にて創立

役員 名誉会長 河 明生
会長 尾崎圭司

会員 J T Aの段位をもつプロキック・ボクサー

届け出先 所属クラブ長を通じて尾崎圭司に連絡。